

COP25の会議で地球温暖化防止のためには、CO2の排出を抑制しなければならぬという議論がなされていた。

先日、テレビを見ていたら日本がいくらCO2を抑制しても温暖化抑制に寄与できる割合はほとんど無視できるほどであるという解説をしていた。また、日本は世界の中でCO2排出抑制技術では有数の優等生であるとのことである。

CO2の排出量と温暖化との因果関係がどの程度あるかは、筆者は正直良くわからないが、縄文時代の遺跡などを見ると、今よりずっと海に近かった様で、縄文海進と言われている。

三内丸山遺跡を今見ると、かなり奥地にあるように見えるが、その当時は今よりかなり海に近かった。現在より、縄文時代のほうが2度ほど温度は高かったようである。当然、今のようCO2排出量多かつたわけではない。単なる太陽と地球の関係である。そのことを考えると、もしかして、いくら

人間が努力しても温暖化は防げないのかもしれない。

環境保全に努力して今の環境を守る努力は必要である。また、出来るだけ、石油などの化石燃料などを節約して後世に伝える努力も必要である。

ただ、いくらCO2の排出を抑制しても、地球の温暖化は避けられないのではないかという疑問なのである。また、都市部のヒートアイランド現象などは、CO2の排出とは関係の無い排熱の問題である。基本的に人類が文化的な生活をするためには、エネルギーを使わざるを得ない。それが排熱となり、回りの温度を上げるのは避けられない問題であり、どちらが温暖化により悪影響を与えているかということには、あまり議論されていない。何故なのかは筆者には良くわからない。

太陽と地球の関係を人類がおいそれと、変えることが出来ないのは自明の理である。また、人間が文化的な生活をするためには、エネルギーを使わざるを得ないし、それは排熱を発生させる。それであるならば、地球は温暖化するという前提で、対策を講じるべきなのではないだろうか。

今年の、災害の状況を見れば、台風や水害の被害は、確かに温暖化が原因のように思われる。そうであれば温暖化するということを前提にいかに対策

を取ればいいのかが問われているのであろう。

そのようにしたくないという問題意識と、それでも現実には問題が顕在化するということの対策を講じることが必要である。

日本も、そうあって欲しくないという議論と、そうなった場合にどうなるかという議論がすっかり峻別されていないのではないだろうか。そのような文脈で、自衛隊のあり方や、憲法9条の議論をして欲しいと願っている。